



飛躍への挑戦！
高知県産業振興計画

平成31年度仁淀川地域アクションプランの
追加、削除、拡充等（予定項目）について

仁 淀 川 地 域 本 部

平成31年2月18日（月）

地域アクションプランの動向

H30年度 238 → H31年度 238

地 域	H30年度 (第3期ver.3)	H31年度 (第3期ver.4)				
	AP数 H30.9.14時点	追 加	削 除	統 合 分 割	小 計	AP数
安 芸	31	1	0	(2→1) ▲ 1	0	31
物部川	28	0	0	0	0	28
高知市	30	0	0	0	0	30
嶺 北	24	0	0	0	0	24
仁淀川	37	0	0	0	0	37
高 幡	41	1	▲ 1	0	0	41
幡 多	47	0	0	0	0	47
合 計	238	2	▲ 1	▲ 1	0	238

仁淀川地域アクションプラン項目（第3期計画ver.3（H30年度）と

No.	平成30年度	土佐市	いの町	仁淀川町	佐川町	越知町	日高村
		13	12	10	9	9	12
1	仁淀川流域茶の生産体制の強化と販売促進		●	●	●	●	●
2	薬用作物の産地拡大による所得の向上			●	●	●	●
3	力強い高糖度トマト産地の確立			●	●		●
4	園芸産地における高収量技術の普及推進と出荷・販売体制の強化	●	●				
5	加工用ワサビの生産と販売	●					
6	生姜の増産と加工品の生産拡大	●					
7	いの町での生姜等加工品製造施設の整備と販売促進		●				
8	本川きじの販路拡大		●				
9	食用山椒の生産体制の確立と販売促進					●	
10	日高村まるごとブランド化						●
11	仁淀川流域における林業・木材産業の振興	●	●	●	●	●	●
12	地域性の高い特用林産物の生産拡大	●	●	●	●	●	●
13	自伐型林業を核とした産業づくりと地域の活性化				●		
14	宇佐の一本釣りうるめいわしのブランド化	●					
15	宇佐のアサリ資源を活用した地域の活性化	●					
16	「土佐和紙」の販売促進と保存・継承	●	●	●			●
17	「ドラゴン広場」を核にした高岡商店街の活性化	●					
18	いの町中心市街地の活性化		●				
19	地域産品を活用した冷菓等の製造販売		●				
20	(株)フードプランのカット野菜事業等の展開による雇用の確保と販売拡大			●			
21	仁淀川町における茶を中心とした農産物の6次産業化推進			●			
22	地域資源を活用した売れる商品づくりと地産外商の推進				●		
23	柑橘類等地域の農産物を活用した加工品の生産と販売拡大					●	
24	ネコ砂(木質系排泄物処理剤)の生産・販売促進						●
25	「村の駅ひだか」を拠点とした交流人口の拡大と地域の活性化						●
26	「奇跡の清流仁淀川」流域の広域観光推進	●	●	●	●	●	●
27	観光交流施設の整備・運営による新居地区の活性化	●					
28	土佐市における体験型観光と食観光の推進	●					
29	酔鯨酒造株式会社新工場を核とした体験型観光等の推進による地域活性化	●					
30	いの町の地域資源を活かした体験型観光等の推進		●				
31	いの町本川地区での山岳観光の推進		●				
32	仁淀川町での観光情報の発信強化と受入体制の充実			●			
33	歴史と文教を活かしたまちづくりによる観光の推進				●		
34	越知町の総合的な観光振興と地場産品の販売促進					●	
35	体験型観光の拠点となるキャンプ場の整備による交流人口の拡大と地域の活性化					●	
36	「屋形船仁淀川」を核とした交流人口の拡大と地域の活性化						●
37	小村神社周辺の仁淀川かわまちづくり整備による交流人口の拡大と地域の活性化						●

第3期計画Ver.4 (H31年度) の対比表

【仁淀川地域】

	土佐市	いの町	仁淀川町	佐川町	越知町	日高村	No.	平成31年度
	13	12	10	9	9	12		
		●	●	●	●	●	1	仁淀川流域茶の生産体制の強化と販売促進
			●	●	●	●	2	薬用作物の産地拡大による所得の向上
			●	●		●	3	力強い高糖度トマト産地の確立
	●	●					4	園芸産地における高収量技術の普及推進と出荷・販売体制の強化
	●						5	加工用ワサビの生産と販売
	●						6	生姜の増産と加工品の生産拡大
		●					7	いの町での生姜等加工品製造施設の整備と販売促進
		●					8	本川きじの販路拡大
					●		9	食用山椒の生産体制の確立と販売促進
						●	10	日高村まるごとブランド化
	●	●	●	●	●	●	11	仁淀川流域における林業・木材産業の振興
	●	●	●	●	●	●	12	地域性の高い特産林産物の生産拡大
				●			13	自伐型林業を核とした産業づくりと地域の活性化
	●						14	宇佐の一本釣りうるめいわしのブランド化
	●						15	宇佐のアサリ資源を活用した地域の活性化
拡充	●	●	●			●	16	「土佐和紙」の販売促進と保存・継承
	●						17	「ドラゴン広場」を核にした高岡商店街の活性化
		●					18	いの町中心市街地の活性化
		●					19	地域産品を活用した冷菓等の製造販売
			●				20	(株)フードプランのカット野菜事業等の展開による雇用の確保と販売拡大
			●				21	仁淀川町における茶を中心とした農産物の6次産業化推進
				●			22	地域資源を活用した売れる商品づくりと地産外商の推進
					●		23	柑橘類等地域の農産物を活用した加工品の生産と販売拡大
						●	24	ネコ砂(木質系排泄物処理剤)の生産・販売促進
						●	25	「村の駅ひだか」を拠点とした交流人口の拡大と地域の活性化
	●	●	●	●	●	●	26	「奇跡の清流仁淀川」流域の広域観光推進
	●						27	観光交流施設の整備・運営による新居地区の活性化
	●						28	土佐市における体験型観光と食観光の推進
	●						29	酔鯨酒造株式会社新工場を核とした体験型観光等の推進による地域活性化
		●					30	いの町の地域資源を活かした体験型観光等の推進
		●					31	いの町本川地区での山岳観光の推進
			●				32	仁淀川町での観光情報の発信強化と受入体制の充実
拡充				●			33	歴史と文教を活かしたまちづくりによる観光の推進
					●		34	越知町の総合的な観光振興と地場産品の販売促進
					●		35	体験型観光の拠点となるキャンプ場の整備による交流人口の拡大と地域の活性化
						●	36	「屋形船仁淀川」を核とした交流人口の拡大と地域の活性化
						●	37	小村神社周辺の仁淀川かわまちづくり整備による交流人口の拡大と地域の活性化

仁淀川地域アクションプランの追加・削除・拡充等（予定項目）

■追加 なし

■削除 なし

■その他(拡充)

NO.	アクションプラン名	見直しする内容
1	<p>No.16 「土佐和紙」の販売促進と保存・継承（土佐市、いの町、仁淀川町、日高村）</p> <p>【実施主体】手すき和紙協同組合、高知県製紙工業会、いの町紙の博物館</p>	<p>【拡充】土佐和紙の伝統産業としての振興を図る目的で策定された「土佐和紙総合戦略」に基づき、県庁内プロジェクトチームとともに当該アクションプランと一体的に取組を進めていくため、主な内容を追加するとともに、土佐和紙の販売額について現状との整合性を図り、「土佐和紙総合戦略」の目標値と同一化を行う。</p>
2	<p>No.33 歴史と文教を活かしたまちづくりによる観光の推進（佐川町）</p> <p>【実施主体】佐川町、（一社）さかわ観光協会、佐川町内の地域づくり団体</p>	<p>【拡充】「志国高知 幕末維新博」の終了後も、引き続き歴史観光を推進していくため、幕末維新博の地域会場となった青山文庫の入館者数を指標・目標に追加するもの。</p>

修正項目(案)

【仁淀川地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
<p>16 「土佐和紙」の販売促進と保存・継承</p> <p>《土佐市、いの町、仁淀川町、日高村》</p>	<p>地域の伝統産業である「土佐和紙」は、売上げが低迷し、生産が減少していることから、手すき和紙及び機械すき和紙の県内外での消費拡大を図り、担い手や原料の確保につなげる。特に担い手については、手すき和紙職人、用具職人、楮栽培農家のいずれもが高齢化が深刻な状況となっており、後継者の育成につながる取組を行う。</p> <p>また、機械すき和紙については、用途拡大に向け、異業種連携やマッチング等を実施し、さらなる販路拡大を目指す。</p>	<p>・手すき和紙協同組合 ・高知県製紙工業会 ・いの町紙の博物館</p>	<p>アクションプランの取組開始:H21 ・土佐和紙の消費拡大に向けた取組(H21～23) ◆景気低迷やデフレ等の要因で、紙産業全体が大幅に落ち込み、土佐和紙の知名度の向上、下降の一途をたどっていた販売額減少の鈍化や原料栽培、加工技術の継承に一定の効果がみられている。特に、土佐和紙が認知されるようになり、利用しようという機運の向上が見られた。(卒業証書利用学校の増加、清酒のハル、龍馬ふるさと博名刺等) ◆廃棄していた書道用紙事業の復活や、新規書道半紙の誕生した。 ・「土佐和紙」の保存・継承に向けて職人へのヒアリング調査を実施(H24) ・いの町商工会が小規模事業者地域力活用新事業全国展開支援事業(全国商工会連合会)を導入し策定した「いの町中心市街地の活性化プラン」において紙部会が新しい紙の文化を発信する方向で検討を開始(H25～26) ・紙の博物館リニューアル準備会(H26～27) ・「高知国際版画トリエンナーレ展」の開催(H26、H29) ・「土佐和紙職人市」の開催(H26) ・「紙のまち博覧会」の開催(H26) ・「高知家統一セールスキャンペーン」(H26重点プロモーション品目:土佐和紙)との連携 ・土佐和紙のプロモーション、販路拡大等に関する情報交換会(手すき和紙協同組合、製紙工業会、いの町、県)の実施(H26) ◆プラチナプリントの印画紙「土佐白金紙」を開発して国内外への販売を開始した。 ◆紙のまち博覧会は、事業者等の商品づくり、営業等への意欲向上及び商工会や観光協会等の関係者間の連携強化につながった。Kami祭として継続開催が決定している。 ◆プロモーション関連事業「土佐和紙商談会in高知」の開催 ⇒参加県外企業:6社 参加県内事業者:8社 商談結果:試作依頼5件、見積依頼3件 ・Kami祭の開催(H27～29) ・「志国高知 幕末経新博」にかかると紙の博物館及び周辺歴史資源のリアル化整備計画の策定(H28) ・産業振興アドバイザー事業を活用して「紙の博物館売店の魅力ある店づくり」を実施、紙博売店リニューアル工事(H28) ・夜の紙博 和紙と灯りのアート展 withトリエンナーレ展の実施(H29) ・楮農家調査の実施(H29)</p>	<p>・土佐和紙の販売促進のためのキーマンとなる立場の組織や人材が不在 ・付加価値をつけた商品づくりと販売戦略の構築 ・鳥の子名刺、清帳紙、納経帳、がんび紙等のニーズの高い商品の生産体制が脆弱 ・日本三大和紙産地としての認知度の向上 ・手すき和紙職人等の高齢化、後継者不足 ・土佐和紙の原料、紙漉き用具の確保</p>	<p>◆販路拡大</p> <p>◆商品開発</p> <p>◆地域が一体となった紙の文化の発信</p> <p>◆手すき和紙職人の後継者育成</p> <p>◆土佐和紙の原料確保</p> <p>◆紙漉き用具の確保</p>

修正前










第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
販路拡大					 土佐和紙の販売額 (H22:4.6億円) 機械すき 4.1億円 手すき 0.5億円 (H26:4.8億円) 機械すき 4.4億円 手すき 0.4億円 手すき和紙協同組合 加入の事業体 (H27:31事業体)	4.8億円 機械すき4.4億円 手すき 0.4億円 31事業体	
既存の販売ルートへの新たな提案等による販売拡大							
見本市、商談会等への参加による新たな販売ルートの開拓							
紙の博物館売店のリニューアル	紙の博物館売店で販売する土佐和紙商品の品ぞろえの充実						
県内の学校・公共団体等での消費拡大							
首都圏の美術大学や高級雑貨店等をターゲットにした商談会の開催及びセールス活動							
紙の博物館内「土佐和紙に関するお問合せ受付窓口」での対応の充実							
紙の博物館HPでの土佐和紙商品の情報発信及び注文受付							
「国際版画トリエンナーレ展」の開催に向けた版画用紙の見本帳の作成、配布	「国際版画トリエンナーレ展」の開催に併せた産地商談会の開催						
商品開発							
製紙会社及び手すき職人の自社製品の開発及びブラッシュアップ							
紙の博物館内「土佐和紙に関するお問合せ窓口」や見本市等で得られるニーズに対応できる商品づくり							
地域が一体となった紙の文化の発信							
かみのひな祭り、Kami祭、紙のこいのぼり等のイベント時や、新商品の発表の場としての土佐和紙職人市の開催							
紙産業に関わる事業者等のネットワークの構築・連携強化							
紙に親しむ体験メニューづくりと売り込み							
一般社団法人仁淀ブルー観光協議会と連携したツアー客等の受け入れと観光商品づくり							
手すき和紙職人の後継者育成							
手すき職人の人材育成							
土佐和紙の原料確保							
楮生産者の維持・確保のための支援策の検討・実践							
紙漉き用具の確保							
現存する用具の保存、管理							
用具職人の人材育成							



【仁淀川地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
<p>16 「土佐和紙」の販売促進と保存・継承 《土佐市、いの町、仁淀川町、日高村》</p>	<p>地域の伝統産業である「土佐和紙」は、売上げが低迷し、生産が減少していることから、手すき和紙及び機械すき和紙の県内外での消費拡大を図り、担い手や原料の確保につなげる。特に担い手については、手すき和紙職人、用具職人、楳栽培農家のいずれもが高齢化が深刻な状況となっており、後継者の育成につながる取組を行う。 また、機械すき和紙については、用途拡大に向け、異業種連携やマッチング等を実施し、さらなる販路拡大を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・手すき和紙協同組合 ・高知県製紙工業会 ・いの町紙の博物館 	<p>アクションプランの取組開始：H21 ・土佐和紙の消費拡大に向けた取組(H21～23) ◆景気低迷やデフレ等の要因で、紙産業界全体が大幅に落ち込み、土佐和紙の知名度の向上、下降の一途をたどっていた販売額減少の鈍化や原料栽培、加工技術の継承に一定の効果が出ている。特に、土佐和紙が認知されるようになり、利用しようという機運の向上が見られた。(卒業証書利用学校の増加、清酒のラベル、龍馬ふると博名刺等) ◆廃業していた書道用紙事業の復活や、新規書道半紙の誕生した。 ・「土佐和紙」の保存・継承に向けて職人へのヒアリング調査を実施(H24) ・いの町商工会が小規模事業者地域力活用新事業全国展開支援事業(全国商工会連合会)を導入し策定した「いの町中心市街地の活性化プラン」において紙部会が新しい紙の文化を発信する方向で検討を開始(H25～26) ・紙の博物館リニューアル準備会(H26～27) ・「高知国際版画トリエンナーレ展」の開催(H26、H29) ・「土佐和紙職人市」の開催(H26) ・「紙のまち博覧会」の開催(H26) ・「高知家統一セールスキャンペーン」(H26重点プロモーション品目：土佐和紙)との連携 ・土佐和紙のプロモーション、販路拡大等に関する情報交換会(手すき和紙協同組合、製紙工業会、いの町、県)の実施(H26) ◆プラチナプリントの印画紙「土佐白金紙」を開発して国内外への販売を開始した。 ◆紙のまち博覧会は、事業者等の商品づくり、営業等への意欲向上及び商工会や観光協会等の関係者間の連携強化につながった。Kami祭として継続開催が決定している。 ◆プロモーション関連事業「土佐和紙商談会in高知」の開催 ⇒参加県外企業：6社 参加県内事業者：8社 商談結果：試作依頼5件、見積依頼3件 ・Kami祭の開催(H27～29) ・「志国高知 幕末維新博」にかかる紙の博物館及び周辺歴史資源のリアル化整備計画の策定(H28) ・産業探検アドバイザー事業を活用して「紙の博物館売店の魅力ある店づくり」を実施、紙売店リニューアル工事(H28) ・夜の紙博 和紙と灯りのアート展 with トリエナーレ展の実施(H29) ・楳農家調査の実施(H29) ◆庁内部省横断プロジェクトチームの協働を経てH30.10月に「土佐和紙総合戦略」を策定したことに伴い、販売額の目標値の修正を行う ◆H26計画策定時から指標の「手すき和紙協同組合加入の事業者(H27：31事業者)」を基に目標値を現状維持と定め、取組を進めていたが、H27当初に実働団体が20団体しかなかったことが判明したため、指標及び目標値の修正を行う(H30)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・土佐和紙の販売促進のためのキーマンとなる立場の組織や人材が不在 ・付加価値をつけた商品づくりと販売戦略の構築 ・鳥の子名刺、清帳紙、納経帳、がんび紙等のニーズの高い商品の生産体制が脆弱 ・日本三大和紙産地としての認知度の向上 ・手すき和紙職人等の高齢化、後継者不足 ・土佐和紙の原料、紙漉き用具の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ◆販路拡大 ◆商品開発 ◆地域が一体となった紙の文化の発信 ◆手すき和紙職人の後継者育成 ◆土佐和紙の原料確保 ◆紙漉き用具の確保 ◆土佐和紙総合戦略に基づく川上から川下までの取組

修正後

第3期計画					指標及び目標		
H28	H29	H30	H31	H32以降	指標	目標値(H31)	
販路拡大						土佐和紙の販売額 (H28:4.8億円)	6.26億円
既存の販売ルートへの新たな提案等による販売拡大						機械すき 4.4億円	機械すき 5.33億円
見本市、商談会等への参加による新たな販売ルートの開拓						手すき 0.4億円	手すき 0.93億円
紙の博物館売店のリニューアル	紙の博物館売店で販売する土佐和紙商品の品ぞろえの充実					(H29:5.9億円)	
県内の学校・公共団体等での消費拡大						機械すき 5.0億円	
首都圏の美術大学や高級雑貨店等をターゲットにした商談会の開催及びセールス活動						手すき 0.9億円	
紙の博物館内「土佐和紙に関するお問合せ受付窓口」での対応の充実						手すき和紙協同組合加入の事業体 (H27:20事業体)	
紙の博物館HPでの土佐和紙商品の情報発信及び注文受付							
「国際版画トリエンナーレ展」の開催に向けた版画用紙の見本帳の作成、配布	「国際版画トリエンナーレ展」の開催に併せた産地商談会の開催						
商品開発							
製紙会社及び手すき職人の自社製品の開発及びブラッシュアップ							
紙の博物館内「土佐和紙に関するお問合せ窓口」や見本市等で得られるニーズに対応できる商品づくり							
地域が一体となった紙の文化の発信							
かみのひな祭り、Kamij祭、紙のこいのぼり等のイベント時や、新商品の発表の場としての土佐和紙職人市の開催							
紙産業に関わる事業者等のネットワークの構築・連携強化							
紙に親しむ体験メニューづくりと売り込み							
一般社団法人仁淀ブルー観光協議会と連携したツアー客等の受け入れと観光商品づくり							
	・「国際版画トリエンナーレ展」の開催 ・関連イベントの実施						
手すき和紙職人の後継者育成							
手すき職人の人材育成							
土佐和紙の原料確保							
楮生産者の維持・確保のための支援策の検討・実践							
紙漉き用具の確保							
現存する用具の保存、管理							
用具職人の人材育成							
土佐和紙総合戦略に基づく川上から川下までの取組							
土佐和紙総合戦略の基本方針に基づく施策の実施							

修正項目(案)

【仁淀川地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
33 歴史と文教を活かしたまちづくりによる観光の推進 《佐川町》	歴史的な街並みの整備を行うとともに、観光資源の効果的な活用により、「歴史と文教のまち・佐川」の魅力をもっと感じられるまちづくりを行政・観光協会・地域が一体となって進める。	・佐川町 ・さかわ観光協会 ・佐川町内の地域づくり団体	アクションプランの取組開始:H21 ・牧野富太郎生家を復元した牧野富太郎ふるさと館の整備・開設(H25.4月) ・浜口邸の改修整備・開設(H25.10月) ・名教館の移築整備・供用開始(H26.3月) ・旧竹村呉服店の整備・活用開始(H28.10月) ・幕末維新博に向けて、青山文庫の改修整備及び案内・誘導看板の整備や周遊先施設の展示充実、情報発信機能の強化等を実施(H28～29) ◆歴史と文教をテーマにした一体的なまちづくりの取組により、歴史的町並みの整備が進んだ。 ・さかわ観光協会設立(H25) ・さかわ観光協会事務局長を全国公募により配属(H27.4月) ・上町まち歩きガイドの充実強化(H25～29) ・多言語対応のポータブル町歩き音声ガイドを作成(H29) ◆さかわ観光協会の体制強化により関係機関の連携が進むなどソフト面が整備され、おもてなし体制が強化された。 ◆産振アドバイザー事業の活用により、まち歩きガイドの充実やさかわ観光協会の体制強化を図るなど組織づくりも進んでいる。 ◆仁淀ブルー観光協議会のセールス活動による団体客の誘致も成果を上げており、佐川を訪れる観光客は増大している。	・幕末維新博の開催を契機とし、さらなる誘客に向けて、観光協会を中心に関係機関・団体や住民が一体となったチーム佐川でのおもてなしの体制づくり	◆観光資源の利活用、効果的な情報発信 ◆体験型観光の推進 ◆おもてなしの体制づくり

修正前



項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
33 歴史と文教を活かしたまちづくりによる観光の推進 《佐川町》	歴史的な街並みの整備を行うとともに、観光資源の効果的な活用により、「歴史と文教のまち・佐川」の魅力をもっと感じられるまちづくりを行政・観光協会・地域が一体となって進める。	・佐川町 ・(一社)さかわ観光協会 ・佐川町内の地域づくり団体	アクションプランの取組開始:H21 ・牧野富太郎生家を復元した牧野富太郎ふるさと館の整備・開設(H25) ・浜口邸の改修整備・開設(H25) ・名教館の移築整備・供用開始(H25) ・旧竹村呉服店の整備・活用開始(H28) ・幕末維新博に向けて、青山文庫の改修整備及び案内・誘導看板の整備や周遊先施設の展示充実、情報発信機能の強化等を実施(H28～29) ◆歴史と文教をテーマにした一体的なまちづくりの取組により、歴史的町並みの整備が進んだ。 ・さかわ観光協会設立(H25) ・さかわ観光協会事務局長を全国公募により配属(H27) ・上町まち歩きガイドの充実強化(H25～) ・多言語対応のポータブル町歩き音声ガイドを作成(H29) ・産振アドバイザー事業を活用した、さかわ観光協会による食事メニューの開発(H30) ・体験型博覧会開催に向けたWSの実施(H30) ・わんさかわつよい体験博の開催(H30) ◆さかわ観光協会の体制強化により関係機関の連携が進むなどソフト面が整備され、おもてなし体制が強化された。 ◆産振アドバイザー事業の活用により、まち歩きガイドの充実やさかわ観光協会の体制強化を図るなど組織づくりも進んでいる。 ◆仁淀ブルー観光協議会のセールス活動による団体客の誘致も成果を上げており、佐川を訪れる観光客は増大している。	・幕末維新博の開催を契機とし、さらなる誘客に向けて、観光協会を中心に関係機関・団体や住民が一体となったチーム佐川でのおもてなしの体制づくり	◆観光資源の利活用、効果的な情報発信 ◆体験型観光の推進 ◆おもてなしの体制づくり

修正後

第3期計画					H32以降	指標及び目標		
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)		
観光資源の利活用、効果的な情報発信 歴史的な遺産や街並みの維持・管理、既存施設や資料等の見せ方の工夫、パンフレット・HP等の活用、関係機関との連携による情報共有・情報発信など					→	上町地区への入込客数 (H26:15,000人)	25,000人	
体験型観光の推進 体験型観光メニューづくり・実施						上町まち歩きガイド利用者数 (H26:4,585人)		5,000人
おもてなしの体制づくり 観光エキスパート人材の育成、観光客受け入れ体制の強化(観光協会・行政・住民の協働、仁淀川地域での広域観光の推進など)								



第3期計画					H32以降	指標及び目標		
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)		
観光資源の利活用、効果的な情報発信 歴史的な遺産や街並みの維持・管理、既存施設や資料等の見せ方の工夫、パンフレット・HP等の活用、関係機関との連携による情報共有・情報発信など					→	上町地区への入込客数 (H26:15,000人)	25,000人	
体験型観光の推進 体験型観光メニューづくり・実施 体験型博覧会の開催						青山文庫の入館者数 (H26:4,201人)		5,500人
おもてなしの体制づくり 観光エキスパート人材の育成、観光客受け入れ体制の強化(観光協会・行政・住民の協働、仁淀川地域での広域観光の推進など)						上町まち歩きガイド利用者数 (H26:4,585人)		

修正項目(案)

【仁淀川地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
3 力強い高糖度トマト産地の確立 《仁淀川町、佐川町、日高村》 ※地域産業クラスター関連(日高村トマト産地拡大プロジェクト)	「学び教え合う場」を中心とした技術の平準化から一歩進めて次世代型の環境制御技術を活用した生産技術の強化を推進する。また、市場や卸売業者と連携した販路拡大を図るとともに、担い手の確保育成を進めることで高糖度トマトの産地の確立を目指す。	・JAコスモス ・JAコスモストマト生産部会 ・(株)コスモスアグリサポート	アクションプランの取組開始:H21<高糖度トマトの産地間競争力の強化> ・人材育成及び産地の体制づくりに向けた組織力の強化、栽培マニュアルによる栽培技術の平準化(H21~) ◆生産技術の向上により生産量アップが図られた。 ・食の安全・安心への取組強化、新たな糖度区分による商品開発、販促活動(H21~) ◆高品質なトマトを生産し、安定した出荷が実施できる産地としてのブランド化が進み、販売単価が向上した。 ・「攻めの農業実践緊急対策事業」を活用した集出荷施設整備及び選果ラインの高度化(H26.12月稼働)(H24~27) ◆軟化果実・芯腐れ果実の選別作業の効率化等につながった。 ・JA出資型法人「(株)コスモスアグリサポート」設立(H28.8月)、高糖度トマトハウス(33a)及び研修ハウス(11a)を新規建設。新規雇用就農(H29:18人) ・5戸の農家が環境制御技術を導入(H28~29) ・2戸、1法人が補助事業を活用して(H28~29)、高糖度トマトの栽培を開始(H29~) ◆高糖度トマトの栽培面積が92a増加した(H29)	・生産技術の向上、高位平準化 ・担い手の確保、育成 ・他産地商品との差別化、販売促進の強化	◆経営管理能力及び生産力の強化 ◆産地強化のための担い手の確保・育成 ◆販売戦略の再構築

修正前






【仁淀川地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
3 力強い高糖度トマト産地の確立 《仁淀川町、佐川町、日高村》 ※地域産業クラスター関連(日高村トマト産地拡大プロジェクト)	「学び教え合う場」を中心とした技術の平準化から一歩進めて次世代型の環境制御技術を活用した生産技術の強化を推進する。また、市場や卸売業者と連携した販路拡大を図るとともに、担い手の確保育成を進めることで高糖度トマトの産地の確立を目指す。	・JA高知県(仁淀川地域) ・JAコスモストマト生産部会 ・(株)コスモスアグリサポート ・(株)イテネン農園 日高農場	アクションプランの取組開始:H21<高糖度トマトの産地間競争力の強化> ・人材育成及び産地の体制づくりに向けた組織力の強化、栽培マニュアルによる栽培技術の平準化(H21~) ◆生産技術の向上により生産量アップが図られた。 ・食の安全・安心への取組強化、新たな糖度区分による商品開発、販促活動(H21~) ◆高品質なトマトを生産し、安定した出荷が実施できる産地としてのブランド化が進み、販売単価が向上した。 ・「攻めの農業実践緊急対策事業」を活用した集出荷施設整備及び選果ラインの高度化(H26.12月稼働)(H24~27) ◆軟化果実・芯腐れ果実の選別作業の効率化等につながった。 ・JA出資法人(株)コスモスアグリサポートを設立(H28.8月)、普通トマト120a、高糖度トマト44a(うち研修ハウス11a)の栽培を開始(H29年) ・JAコスモスがミニトマトの出荷に対応するため、トマト第2選果場を稼働(H29) ・イテネン農園日高農場では、1期工事のハウス50a(H29)に続き、2期工事180a(2棟)が完了し、ハウスは全体で2haとなった(H30) ◆新規雇用就農者は計8名となった(H29:6名、H30:2名) ・環境制御技術の取組開始(H25~) ◆栽培面積全体の69%、724aで導入(H30) ・新規就農者2戸と1法人が補助事業を活用し、トマト・ミニトマトの栽培を拡大(H30) ◆作付面積の合計は10.8haとなった(H30)	・生産技術の向上、高位平準化 ・担い手の確保、育成 ・他産地商品との差別化、販売促進の強化	◆経営管理能力及び生産力の強化 ◆産地強化のための担い手の確保・育成 ◆販売戦略の再構築

修正後

第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
					トマト販売額 (H19:4.2億円) (H22:3.7億円) (H26:4.6億円)	5.1億円	
経営管理能力及び生産力の強化 個別カウンセリングや農業簿記帳による経営管理の強化、栽培マニュアルの改正・環境制御技術の導入による生産技術の強化							
							
産地強化のための担い手の確保・育成 産地提案型等による担い手の確保、研修生の受け入れ体制及び就農支援体制の強化、JA出資型法人「㈱コスモスアグリサポート」等との連携							
							
販売戦略の再構築 新たな販路の確保、地域ネットワークの活用等							



第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
					トマト販売額 (H19:4.2億円) (H22:3.7億円) (H26:4.6億円)	5.1億円	
経営管理能力及び生産力の強化 個別カウンセリングや農業簿記帳による経営管理の強化、栽培マニュアルの改正・環境制御技術の導入による生産技術の強化							
							
産地強化のための担い手の確保・育成 産地提案型等による担い手の確保、研修生の受け入れ体制及び就農支援体制の強化、JA出資型法人「㈱コスモスアグリサポート」等との連携							
							
販売戦略の再構築 新たな販路の確保、地域ネットワークの活用等							

第3期計画					指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	H32以降	指標	目標値(H31)
自伐型林業の確立					林業関連新規就業者数 (H27:5人)	24人(H28~31累計)
地域おこし協力隊の採用とその自立化						
林地の集約化						
自伐型林業研修の実施						
低質材の活用促進					山林の集約化面積 (H27:0ha)	400ha(H28~31累計)
バイオマス燃料の利用促進と販路拡大						
中間土場の整備と運営の検討						
さかわ産木材を活用したものづくりの推進					ものづくりと連携した 起業家 (H27:0人)	3人(H28~31累計)
さかわ発明ラボの開設・運営とその自立化						
デジタル加工機の導入・活用						
低質材を活用した木工品の開発・販売						
学校教育・地域等と連携した人材育成					ものづくりと連携した 起業家 (H27:0人)	3人(H28~31累計)
環境教育の実施、体験学習の受入						
学校教育の現場への加工機導入・活用						
集落活動センターなどのものづくり拠点の整備・運営						



第3期計画					指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	H32以降	指標	目標値(H31)
自伐型林業の確立					林業関連新規就業者数 (H27:5人)	24人(H28~31累計)
地域おこし協力隊の採用とその自立化						
林地の集約化						
自伐型林業研修の実施						
低質材の活用促進					山林の集約化面積 (H27:0ha)	400ha(H28~31累計)
バイオマス燃料の利用促進と販路拡大						
中間土場の整備と運営の検討				森林資源総合活用施設の整備・運営		
さかわ産木材を活用したものづくりの推進					ものづくりと連携した 起業家 (H27:0人)	3人(H28~31累計)
さかわ発明ラボの開設・運営とその自立化						
デジタル加工機の導入・活用						
低質材を活用した木工品の開発・販売						
学校教育・地域等と連携した人材育成					ものづくりと連携した 起業家 (H27:0人)	3人(H28~31累計)
環境教育の実施、体験学習の受入						
学校教育の現場への加工機導入・活用						
集落活動センターなどのものづくり拠点の整備・運営						

修正項目(案)

【仁淀川地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
22 地域資源を活用した売れる商品づくりと地産外商の推進 《佐川町》	地元の事業者が一次産品等を使った特長のある商品づくりを行うとともに、販売促進のための仕組みを構築することで地産外商を推進し、外貨の獲得を目指す。	・佐川町 ・JAコスモス ・地元農家 ・地元酪農家 ・佐川町商工会 ・地元商工業者 ・岡吉本乳業	アクションプランの取組開始：H21 ・酪農家を含めた農商工連携組織「さかわの地乳プロジェクト推進会議」を設置し、産業振興総合補助金を活用して広報・販促資材を整備(H22、23) ・地乳を使った加工品の開発等を進め、「さかわの地乳」のブランド化や商品づくり、そのPR・販売促進の取組を実施(H21～29) ・地乳商品認定要綱を策定し、4事業者の25品目の商品を「ちちちブランド」に認定(H26) ・産振アドバイザー事業を活用し、イベントの効果的な実施等、地乳ブランド普及に向けた取り組みを検討(H28) ・岡吉本乳業が産業振興総合補助金を活用し、さかわの地乳製造施設を整備するとともに、県版HACCP第2ステージ認証を取得(H28) ◆地乳を使ったプリンやアイスクリーム、パン等の新商品を開発し、町内外の直販所等で販売されている。牛乳についても県内外の量販店との取引が広がっている。 ・地元農家で結成された「黒岩じるし」や尾川地区で紅茶生産を行う「明郷園」が、農業創造セミナーや産振アドバイザー事業を活用するなど、積極的に新商品の開発や商品の売り上げを実施(H25～27) ◆H27から県内老舗旅館で紅茶の取り扱いが開始した。	・地乳ブランドを向上させるためには、酪農家の顔が見える商品づくりを進め、佐川ならではの地乳ネームバリューを上げていく必要がある ・地乳製造施設での衛生管理体制の強化	◆地元農産物等を使った加工品の開発及び販売促進の体制づくり ◆売れる仕組みづくり ◆牛乳加工施設の整備及び販路拡大

修正前



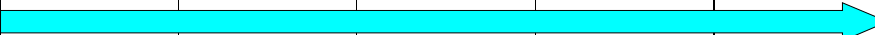
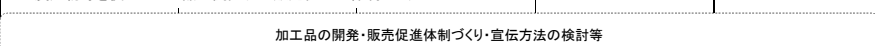
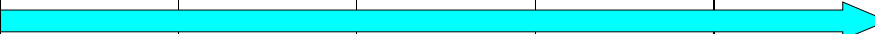
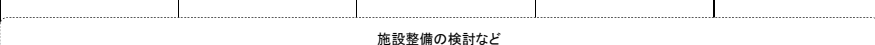

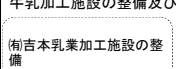
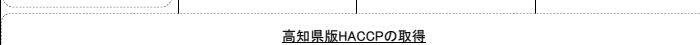
【仁淀川地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
22 地域資源を活用した売れる商品づくりと地産外商の推進 《佐川町》	地元の事業者が一次産品等を使った特長のある商品づくりを行うとともに、販売促進のための仕組みを構築することで地産外商を推進し、外貨の獲得を目指す。	・佐川町 ・JAコスモス ・地元農家 ・地元酪農家 ・佐川町商工会 ・地元商工業者 ・岡吉本乳業	アクションプランの取組開始：H21 ・酪農家を含めた農商工連携組織「さかわの地乳プロジェクト推進会議」を設置し、産業振興総合補助金を活用して広報・販促資材を整備(H22、23) ・地乳を使った加工品の開発等を進め、「さかわの地乳」のブランド化や商品づくり、そのPR・販売促進の取組を実施(H21～) ・地乳商品認定要綱を策定し、4事業者の25品目の商品を「ちちちブランド」に認定(H26) ・産振アドバイザー事業を活用し、イベントの効果的な実施等、地乳ブランド普及に向けた取り組みを検討(H28) ・岡吉本乳業が産業振興総合補助金を活用し、さかわの地乳製造施設を整備するとともに、県版HACCP第2ステージ認証を取得(H28) ◆地乳を使ったプリンやアイスクリーム、パン等の新商品を開発し、町内外の直販所等で販売されている。牛乳についても県内外の量販店との取引が広がっている。 ・地元農家で結成された「黒岩じるし」や尾川地区で紅茶生産を行う「明郷園」が、農業創造セミナーや産振アドバイザー事業を活用するなど、積極的に新商品の開発や商品の売り上げを実施(H25～27) ◆H27から県内老舗旅館で紅茶の取り扱いが開始した。	・地乳ブランドを向上させるためには、酪農家の顔が見える商品づくりを進め、佐川ならではの地乳ネームバリューを上げていく必要がある ・地乳製造施設での衛生管理体制の強化	◆地元農産物等を使った加工品の開発及び販売促進の体制づくり ◆売れる仕組みづくり ◆牛乳加工施設の整備及び販路拡大

修正後

第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
					牛乳類商品販売額 (H27:1.27億円)	1.57億円	
地元農産物等を使った加工品の開発及び販売促進の体制づくり 							
							
売れる仕組みづくり 							
							
牛乳加工施設の整備及び販路拡大 							
							
							



第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
					牛乳類商品販売額 (H27:1.27億円)	1.57億円	
地元農産物等を使った加工品の開発及び販売促進の体制づくり 							
							
売れる仕組みづくり 							
							
牛乳加工施設の整備及び販路拡大 							
							
							

修正項目(案)

【仁淀川地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
<p>26 「奇跡の清流仁淀川」流域の広域観光推進</p> <p>《仁淀川地域全域》</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">修正前</p>	<p>仁淀川地域の自然、歴史、文化、生活、産業などの多様な地域資源を生かして旅行商品化を進めることで仁淀川ファンの拡大を図る。また、全国屈指の水質を誇る仁淀川のブランド化を進め、国内外での知名度を高めることで交流人口の拡大を図り、地域の活性化を目指す。</p>	<p>・(一社)仁淀ブルー観光協議会 ・土佐市 ・いの町 ・仁淀川町 ・佐川町 ・越知町 ・日高村 ・(一社)いの町観光協会 ・仁淀川町観光協会 ・(一社)さかわ観光協会 ・越知町観光協会</p>	<p>アクションプランの取組開始:H23 ・広域観光を推進する母体となる仁淀川地域観光協議会を設立(H22) ・「奇跡の清流仁淀川」ブランドを生かした観光・物販情報の発信(H23~) ・旅行商品及び観光資源等のプロモーション活動と商品化に向けた旅行会社のサポート(H23~) ・着地型観光旅行商品の造成(H23~) ・市町村や観光協会の観光資源の磨き上げに関するサポート(H23~) ・中長期計画の策定(H26) ・インバウンド対応の推進(H27~) ・一般社団法人化(H27) ・第2種旅行業登録(H28) ◆H22の仁淀川地域観光協議会設立以降、地域の観光施設や観光資源にマッチした旅行会社を中心にセールスやサポートを行い、実現したツアーによる流域への誘客数は、年々実績を伸ばしている。 ◆旅行会社のパンフレット掲載、HP、ブログ、FB、観光物産展の開催など、一般旅行者に向けた観光情報の発信事業にも取り組み、テレビや雑誌等マスコミにも仁淀川が取り上げられ、着実に知名度が向上している。 ◆H27.3月には広域観光の推進及び協議会の安定した運営を目指して「中長期計画」を策定し、毎月の幹事会で中長期計画の実践に向けた協議を継続して行っている。この中でこれまでの任意団体から法人化(「一般社団法人仁淀ブルー観光協議会」を設立(H27.12月))することで運営組織の体制強化が図られ、取組のバージョンアップに着手している。 ・ツアー催行本数 H24:110本 H25:149本 H26:164本 H27:147本 H28:181本 ・ツアー客数 H24:2,477人 H25:3,660人 H26:4,153人 H27:3,784人 H28:4,511人 ・産業振興アドバイザー事業を活用して高知銀行ノベルティグッズ及び土産品を開発(H28) ・第2種旅行業登録の完了に伴い、自主企画ツアーを造成・販売するなど、自主財源の確保に向けた取組の進展(H28~)。</p>	<p>・旅行会社や観光客の多様なニーズに対応できる旅行商品の企画及び商品化 ・観光地としての認知度のさらなる向上 ・外国人観光客の受け入れ環境の整備 ・6市町村、観光協会及び地域の観光関係者とのさらなる連携の強化 ・安定した組織運営(自主財源の確保、旅行業の登録等)</p>	<p>◆観光客の誘致</p> <p>◆観光資源の旅行商品化</p> <p>◆「奇跡の清流仁淀川」ブランドを生かした情報発信の強化</p> <p>◆外国人観光客(クルーズ客船含む)の受け入れ体制の整備</p> <p>◆仁淀川地域の観光に携わる人材の育成</p> <p>◆中長期計画に基づく組織体制の強化</p>



第3期計画				H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31		指標	目標値(H31)
観光客の誘致				→	仁淀ブルー観光協議会関連のツアー送客数 (H23:500人)(H26:4,153人)	5,500人
旅行会社へのプロモーション活動(旅行会社への売り込み、旅行商品販売に向けたチラシ・パンフレット等の作成)					主要宿泊施設の宿泊者数 (H26:65,410人)	72,000人
「奇跡の清流仁淀川」を生かした仁淀川地域での観光戦略の策定、知名度の向上(ブランド化)						
ワンストップ窓口の機能強化(ランドオペレーター機能及び地域コーディネート機能の強化)				→	主要観光施設の入込客数 (H26:216,458人)	276,000人
観光資源の旅行商品化						
観光資源の発掘・レベルアップ(市町村や観光関係者と連携した観光資源の発掘、体験プログラム等の磨き上げ及び実施体制の整備)						
旅行商品化への取組(ターゲット別・テーマ別など観光資源を組み合わせた周遊ツアー・滞在型ツアーの造成、旅行会社と連携した魅力ある旅行商品の造成)				→		
「奇跡の清流仁淀川」ブランドを生かした情報発信の強化						
地域の観光情報の収集及び発信(各市町村及び関係団体からの情報収集、HP等のインターネットツールやパンフレット等を活用した観光情報等の発信)						
広域観光案内(来訪や電話による紹介への対応、地域のお勧め情報の提供)				→		
外国人観光客(クルーズ客船含む)の受け入れ体制の整備						
Webサイト等を活用した仁淀川地域の魅力発信、看板やメニュー表記の多言語化等による受け入れ環境の整備						
仁淀川地域の観光に携わる人材の育成				→		
旅行商品化、観光のトレンド、観光資源のレベルアップ等のための研修会等の開催(対象:市町村、観光協会、仁淀川地域情報員、観光施設、宿泊施設、道の駅など)						
中長期計画に基づく組織体制の強化						
中長期計画に基づいた取組の実践及び見直し(PDCAサイクル)				→		
一般社団法人仁淀ブルー観光協議会のパートナーとの連携強化						
自主財源の確保(賛助会費、旅行会社等からの販売手数料、物販収入など)						
旅行業登録	旅行業を活用した旅行商品の企画・造成・販売			→		
観光動向調査						
日本版DMO登録に向けた観光戦略の策定	日本版DMO申請	日本版DMO登録				
観光戦略に基づく実践・観光地域づくり				→		



【仁淀川地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
<p>26 「奇跡の清流仁淀川」流域の広域観光推進</p> <p>◀仁淀川地域全域▶</p> <p style="text-align: center; background-color: black; color: white; padding: 5px;">修正後</p>	<p>仁淀川地域の自然、歴史、文化、生活、産業などの多様な地域資源を生かして旅行商品化を進めることで仁淀川ブランドの拡大を図る。また、全国屈指の水質を誇る仁淀川のブランド化を進め、国内外での知名度を高めることで交流人口の拡大を図り、地域の活性化を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・(一社)仁淀ブルー観光協議会 ・土佐市 ・いの町 ・仁淀川町 ・佐川町 ・越知町 ・日高村 ・(一社)土佐市観光協会 ・(一社)いの町観光協会 ・仁淀川町観光協会 ・(一社)さかわ観光協会 ・越知町観光協会 	<p>アクションプランの取組開始:H23</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広域観光を推進する母体となる仁淀川地域観光協議会を設立(H22) ・「奇跡の清流仁淀川」ブランドを生かした観光・物販情報の発信(H23～) ・旅行商品及び観光資源等のプロモーション活動と商品化に向けた旅行会社のサポート(H23～) ・着地型観光旅行商品の造成(H23～) ・市町村や観光協会の観光資源の磨き上げに関するサポート(H23～) ・中長期計画の策定(H26) ・インバウンド対応の推進(H27～) ・一般社団法人化(H27) ・第2種旅行業登録(H28) ・第2種旅行業登録の完了に伴い、自主企画ツアーを造成・販売するなど、自主財源の確保に向けた取組の進展(H28～) ◆H22の仁淀川地域観光協議会設立以降、地域の観光施設や観光資源にマッチした旅行会社を中心にセールスやサポートを行い、実現したツアーによる流域への誘客数は、年々実績を伸ばしている。 ◆旅行会社のパンフレット掲載、HP、ブログ、FB、観光物産展の開催など、一般旅行者に向けた観光情報の発信事業にも取り組み、テレビや雑誌等マスコミにも仁淀川が取り上げられ、着実に知名度が向上している。 ◆H27.3月には広域観光の推進及び協議会の安定した運営を目指して「中長期計画」を策定し、毎月の幹事会で中長期計画の実践に向けた協議を継続して行っている。この中でこれまでの任意団体から法人化(「一般社団法人仁淀ブルー観光協議会」)を設立(H27.12月)することで運営組織の体制強化が図られ、取組のバージョンアップに着手している。 ・産業振興アドバイザー事業を活用して高知銀行ノベルティグッズ及び土産品を開発(H28) ◆「仁淀川DMO(仮称)」の形成・確立に向けた調査・分析及び観光戦略案策定(H29) ◆日本版DMO候補法人登録(H30) ・「仁淀ブルーDMO」観光戦略実行ワーキンググループを開催し、官民、産業間、地域間の持続可能な連携を図る仕組みの構築及び戦略推進のPDCAサイクルの実施(H30～) 	<ul style="list-style-type: none"> ・旅行会社や観光客の多様なニーズに対応できる旅行商品の企画及び商品化 ・観光地としての認知度のさらなる向上 ・外国人観光客の受け入れ環境の整備 ・6市町村、観光協会及び地域の観光関係者とのさらなる連携の強化 ・安定した組織運営(自主財源の確保、旅行業の登録等) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆観光客の誘致 ◆観光資源の旅行商品化 ◆「奇跡の清流仁淀川」ブランドを生かした情報発信の強化 ◆外国人観光客(クルーズ客船含む)の受け入れ体制の整備 ◆仁淀川地域の観光に携わる人材の育成 ◆中長期計画に基づく組織体制の強化

第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
観光客の誘致					仁淀ブルー観光協議会関連のツアー送客数 (H23:500人)(H26:4,153人)	5,500人	
旅行会社へのプロモーション活動(旅行会社への売り込み、旅行商品販売に向けたチラシ・パンフレット等の作成)							
「奇跡の清流仁淀川」を生かした仁淀川地域での観光戦略の策定、知名度の向上(ブランド化)							
ワンストップ窓口の機能強化(ランドオペレーター機能及び地域コーディネート機能の強化)					主要宿泊施設の宿泊者数 (H26:65,410人)	72,000人	
観光資源の発掘・レベルアップ(市町村や観光関係者と連携した観光資源の発掘、体験プログラム等の磨き上げ及び実施体制の整備)							
観光資源の発掘・レベルアップ(市町村や観光関係者と連携した観光資源の発掘、体験プログラム等の磨き上げ及び実施体制の整備)					主要観光施設の入込客数 (H26:216,458人)	276,000人	
旅行商品化への取組(ターゲット別・テーマ別など観光資源を組み合わせた周遊ツアー・滞在型ツアーの造成、旅行会社と連携した魅力ある旅行商品の造成)							
「奇跡の清流仁淀川」ブランドを生かした情報発信の強化					主要観光施設の入込客数 (H26:216,458人)	276,000人	
地域の観光情報の収集及び発信(各市町村及び関係団体からの情報収集、HP等のインターネットツールやパンフレット等を活用した観光情報等の発信)							
広域観光案内(来訪や電話による紹介への対応、地域のお勧め情報の提供)							
外国人観光客(クルーズ客船含む)の受け入れ体制の整備					主要観光施設の入込客数 (H26:216,458人)	276,000人	
Webサイト等を活用した仁淀川地域の魅力発信、看板やメニュー表記の多言語化等による受け入れ環境の整備							
仁淀川地域の観光に携わる人材の育成					主要観光施設の入込客数 (H26:216,458人)	276,000人	
旅行商品化、観光のトレンド、観光資源のレベルアップ等のための研修会等の開催(対象:市町村、観光協会、仁淀川地域情報員、観光施設、宿泊施設、道の駅など)							
中長期計画に基づく組織体制の強化					主要観光施設の入込客数 (H26:216,458人)	276,000人	
中長期計画に基づいた取組の実践及び見直し(PDCAサイクル)							
一般社団法人仁淀ブルー観光協議会のパートナーとの連携強化					主要観光施設の入込客数 (H26:216,458人)	276,000人	
自主財源の確保(賛助会費、旅行会社等からの販売手数料、物販収入など)							
旅行業登録	旅行業を活用した旅行商品の企画・造成・販売				主要観光施設の入込客数 (H26:216,458人)	276,000人	
観光動向調査							
日本版DMO登録に向けた観光戦略の策定	日本版DMO申請	日本版DMO登録			主要観光施設の入込客数 (H26:216,458人)	276,000人	
観光戦略に基づく実践・観光地域づくり							

修正項目(案)

【仁淀川地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
28 土佐市における体験型観光と食観光の推進 《土佐市》	地域の観光や食の資源を活用し、体験型観光と食観光を組み合わせることによって滞在時間の延長を図り、宿泊を伴う滞在型観光につなげる。	・土佐市 ・土佐市商工会 ・宇佐ホエールウォッチング協会 ・地域づくり団体	アクションプランの取組開始：H21 ・体験型観光及び食観光の推進(H21～29) ◆宇佐土曜市が旅行商品に組み込まれるなど、体験型観光メニューとして販売されている。 ◆従来実施してきた宇佐ホエールウォッチングに加え、宇佐のクルージングメニューが開発され、旅行会社から高評価を得ている。 ◆体験型観光メニューを開発、実施する事業者や地域づくり団体が設立され、地域資源の旅行商品化に向けた民間での取組が進んでいる。 ◆国の史跡に指定された遷路道「青龍寺道」を活かした観光プランづくりに取り組んでおり、県内旅行会社を招いたモニターツアーでも担当者からニーズはあるとの評価を得ている。	・体験型観光及び食観光でのメニューの開発、受入体制の整備、情報発信の強化	◆地域資源を活用した旅行商品化 ◆体験型観光及び食観光のメニューのブラッシュアップ
修正前					



【仁淀川地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
28 土佐市における体験型観光と食観光の推進 《土佐市》	地域の観光や食の資源を活用し、体験型観光と食観光を組み合わせることによって滞在時間の延長を図り、宿泊を伴う滞在型観光につなげる。	・土佐市 ・土佐市商工会 ・宇佐ホエールウォッチング協会 ・地域づくり団体 ・(一社)土佐市観光協会	アクションプランの取組開始：H21 ・体験型観光及び食観光の推進(H21～) ◆宇佐土曜市が旅行商品に組み込まれるなど、体験型観光メニューとして販売されている。 ◆従来実施してきた宇佐ホエールウォッチングに加え、宇佐のクルージングメニューが開発され、旅行会社から高評価を得ている。 ◆体験型観光メニューを開発、実施する事業者や地域づくり団体が設立され、地域資源の旅行商品化に向けた民間での取組が進んでいる。 ◆国の史跡に指定された遷路道「青龍寺道」を活かした観光プランづくりに取り組んでおり、県内旅行会社を招いたモニターツアーでも担当者からニーズはあるとの評価を得ている。	・体験型観光及び食観光でのメニューの開発、受入体制の整備、情報発信の強化	◆地域資源を活用した旅行商品化 ◆体験型観光及び食観光のメニューのブラッシュアップ
修正後					

第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
地域資源を活用した旅行商品化					→	体験型・食観光における入込客数 (H26:約2,500人)	6,000人
地域資源の掘り起こし及び活用							
一般社団法人仁淀ブルー観光協議会と連携したツアー客の受け入れや観光商品づくり							
体験型観光及び食観光のメニューのブラッシュアップ					→		
体験型観光・食観光でのメニューの開発、受け入れ体制、情報発信の強化							



第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
地域資源を活用した旅行商品化					→	体験型・食観光における入込客数 (H26:約2,500人)	6,000人
地域資源の掘り起こし及び活用							
一般社団法人仁淀ブルー観光協議会と連携したツアー客の受け入れや観光商品づくり							
体験型観光及び食観光のメニューのブラッシュアップ					→		
体験型観光・食観光でのメニューの開発、受け入れ体制、情報発信の強化							

修正項目(案)

【仁淀川地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
<p>30</p> <p>いの町の地域資源を活かした体験型観光等の推進</p> <p>（いの町）</p> <p>修正前</p>	<p>仁淀川の美しい自然、土佐和紙の歴史、古い町並みなど、いの町の持つ魅力を活かして体験メニューや土産品づくりを進めるとともに、季節ごとの特色あるイベントを開催することで交流人口の拡大を図り、地域の活性化につなげる。</p>	<p>・いの町 ・(一社)いの町観光協会</p>	<p>アクションプランの取組開始:H21 ・新たな体験メニューの開発(H21~27) ◆いの町内の公共関連宿泊施設の利用者が増加しており、雇用の増加(土佐和紙工芸村他)につながっている。 ・体験メニューによる観光客の受け入れ体制の強化(カヌー、パーベキュー)(H24~25、H28) ◆いの町観光協会が中心となって体験メニューの開発を進め、H28年度にはいの町グリーンツーリズム研究会、仁淀川地域観光協議会等と連携して移住をテーマにした「田舎暮らし体験のロングステイ」企画が商品化された。 ◆新しいメニューのカヌー・ラフティング、にこにこBBQは好評である。 ◆SUP・ラフティングの備品を拡充したことで利用者の増につながっている。 ・イベントの開催(いの町紙のこのぼり、かみのひな祭り、グリーンパークほどの梅もぎ体験、仁淀川国際水切り大会、仁淀川神楽と鮎と酒に酔う)(H24~29) ・紙の博物館、いの町商工会等と連携して「紙のまち博覧会」(H26)及び「Kami祭」(H27~28)の開催。 ◆体験型観光及び地域資源を生かしたイベントに合わせて、土佐和紙などの特産品を一体的にPRすることにより、地域にお金を落とす仕組みを構築した。 ・産業振興アドバイザー事業を活用してむさび温泉の従業員の接客研修を実施(H28~29) ◆「顧客満足」の重要性を学んだことでスタッフの意識や接客に改善が見られ、来客者アンケートを実施して顧客満足度80%以上を目指すまでにスタッフの士気が向上した。</p>	<p>・外国人を含む観光客の満足度の向上 ・県外に向けた情報発信 ・新たな体験メニューやお客様の思い出に残る土産品の開発</p>	<p>◆体験メニューの販売促進</p> <p>◆イベントの開催</p> <p>◆お土産品(食・工芸品等)づくり</p> <p>◆外国人観光客の受入体制整備</p>



【仁淀川地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
<p>30</p> <p>いの町の地域資源を活かした体験型観光等の推進</p> <p>（いの町）</p> <p>修正後</p>	<p>仁淀川の美しい自然、土佐和紙の歴史、古い町並みなど、いの町の持つ魅力を活かして体験メニューや土産品づくりを進めるとともに、季節ごとの特色あるイベントを開催することで交流人口の拡大を図り、地域の活性化につなげる。</p>	<p>・いの町 ・(一社)いの町観光協会</p>	<p>アクションプランの取組開始:H21 ・新たな体験メニューの開発(H21~27) ◆町内の公共関連宿泊施設の利用者が増加、雇用の増加(土佐和紙工芸村他)に繋がった。 ・体験メニューによる観光客の受け入れ体制の強化(カヌー、パーベキュー)(H24~25、H28、H30) ◆カヌー・ラフティング、にこにこBBQは実績も伸びており好評。 ◆SUP・ラフティングの備品を拡充し、利用者の増につながっている。 ・イベント開催(いの町紙のこのぼり、かみのひな祭り、グリーンパークほどの梅もぎ体験、仁淀川国際水切り大会、仁淀川神楽と鮎と酒に酔う)(H24~) ・紙の博物館、いの町商工会等と連携して「紙のまち博覧会」(H26)及び「Kami祭」(H27~)の開催。 ◆体験型観光及び地域資源を生かしたイベントに合わせて、土佐和紙等の特産品を一体的にPRし、地域にお金を落とす仕組みを構築。 ・産業振興アドバイザー事業を活用し、むさび温泉の従業員の接客研修を実施(H28~29) ◆スタッフの意識や接客に改善が見られ、士気の向上に繋がった。 ・産業アドバイザー事業活用によるにこにこ館の改修にかかるにこにこBBQ等の体験メニューの磨き上げ及び事業計画の策定(H30) ◆にこにこ館改修の基本案策定及び体験型観光拠点としての機能強化に繋がった。</p>	<p>・外国人を含む観光客の満足度の向上 ・県外に向けた情報発信 ・新たな体験メニューやお客様の思い出に残る土産品の開発</p>	<p>◆体験メニューの販売促進</p> <p>◆イベントの開催</p> <p>◆お土産品(食・工芸品等)づくり</p> <p>◆外国人観光客の受入体制整備</p>

第3期計画					指標及び目標		
H28	H29	H30	H31	H32以降	指標	目標値(H31)	
体験メニューの販売促進					→	体験参加人数 (H28:20,849人)	25,000人
まち歩き等体験メニューのガイドの育成・スキルアップ						体験メニュー売上高 (H28:29,946千円)	45,700千円
既存の体験メニューのブラッシュアップとPR・セールス						主要観光施設入込 客数 (H28:401,015人)	436,000人
	新たな体験メニューの検討	新たな体験メニューの試行	新たな体験メニューの本格実施・売り込み				
イベントの開催					→		
紙のこいのぼり、Kamijari、かみのひな祭り等、地域資源を生かしたイベントの開催							
お土産品(食・工芸品等)づくり					→		
既存商品などのイベントへの出店及び商談会等のマッチングの機会拡大による販路の開拓							
地域資源を活かした新商品の開発とPR							
インターネット 販売の検討 及び開発	インターネット販売の本格実施及び販売促進						
外国人観光客の受入体制整備					→		
ガイドブック等の多言語化	多言語化したガイドブック等の活用						
HPの多言語化による情報発信の強化							
一般社団法人に淀ブルー観光協議会と連携したツアー客の受け入れと観光商品づくり・旅行会社等への売込み							



第3期計画					指標及び目標		
H28	H29	H30	H31	H32以降	指標	目標値(H31)	
体験メニューの販売促進					→	体験参加人数 (H28:20,849人)	25,000人
まち歩き等体験メニューのガイドの育成・スキルアップ						うち、いの町紙の博 物館 (H28:8,472人)	8,300人
既存の体験メニューのブラッシュアップとPR・セールス						体験メニュー売上高 (H28:29,946千円)	45,700千円
	新たな体験メニューの検討	新たな体験メニューの試行	新たな体験メニューの本格実施・売り込み		うち、いの町紙の博 物館 (H28:2,588千円)	3,321千円	
イベントの開催					→		
紙のこいのぼり、Kamijari、かみのひな祭り等、地域資源を生かしたイベントの開催						主要観光施設入込 客数 (H28:401,015人)	436,000人
お土産品(食・工芸品等)づくり					→	うち、いの町紙の博 物館 (H28:26,179人)	30,000人
既存商品などのイベントへの出店及び商談会等のマッチングの機会拡大による販路の開拓							
地域資源を活かした新商品の開発とPR							
インターネット 販売の検討 及び開発	インターネット販売の本格実施及び販売促進						
外国人観光客の受入体制整備					→		
ガイドブック等の多言語化	多言語化したガイドブック等の活用						
HPの多言語化による情報発信の強化							
一般社団法人に淀ブルー観光協議会と連携したツアー客の受け入れと観光商品づくり・旅行会社等への売込み							